

ライフプラン講座<第1回>

20歳代のライフプラン
～お金の基礎を作ろう～

ライフプランとは

「ライフプラン」とは、充実した生活を送るための「人生設計」のことで、ライフプランの三要素は「健康」「生きがい」「お金」であると言われていきます。それぞれの要素はお互いに不可分ですが、ここでは「お金」の流れという視点から考えてみたいと思います。

ライフプランと「お金」とは、例えば、親元で育ち、就職して一人暮らしを始め、結婚、出産、育児、教育、マイホームの取得、定年を迎えて退職金で老後の生活、というのがサラリーマンライフの一般的なライフイベントですが、そのライフイベントに必要な「お金」について計画的に考えておきましょう、ということですよ。

「ライフプラン」は人それぞれです。



白崎 美穂

ファイナンシャルプランナー
(CFP・1級FP技能士)

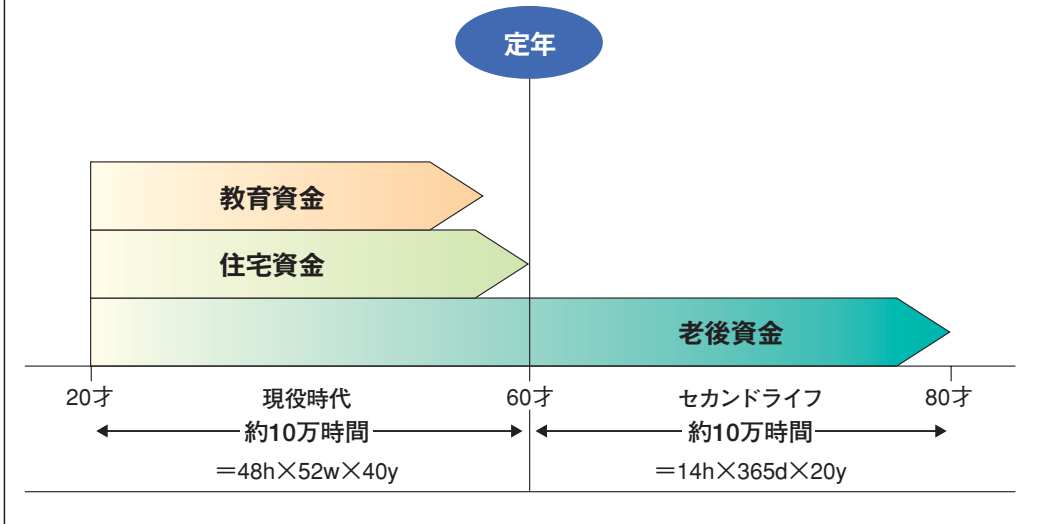
【しらさき・みほ】北海道旭川市出身。(有)アーバン企画代表取締役。建設会社、金融機関勤務を経て独立。保険、資産運用、不動産などの個別相談に応じるかたわら、企業や各種団体のライフプランセミナー、投資教育セミナー、及び市民講座や金銭教育講座の講師として活動中

「人生設計」のことですから、結婚するのかもしれないのか、子供を生むのかもしれないのか、家を持つのか持たないのか、共稼ぎなのかそうでないのかなど、それぞれの選択によって「ライフプラン」は千差万別です。

また、我々が住んでいる日本は、世界に類を見ない急速な少子高齢社会へと変貌しています。国はバブル経済崩壊を機に膨大な借金財政に陥っていますし、政策金利は一〇年以上も〇%台、最近では社会保険制度や公的年金制度の一方的な見直しなど、我々の生活を取り巻く環境は刻々と変化しています。つまり、少しくらい目を離していても安心できる時代ではなくなったということですよ。

そこで、個々のライフプランが必要な背景にある少子高齢社会ということ

図表1 ライフプランと資金計画



について、少し触れておきたいと思
います。ご存知のように、日本の出生率
は現在一・三程度ですから、今世紀
末には人口が半減すると言われていま
す。これに対してアメリカの場合は二
程度ですから、二人の男女から生まれ
てくる子供も二人なので、世代交代は

順調です。また、移民も受け入れるお
国柄なので、生産人口に支障はありま
せん。しかし、日本では女性が一生
に産む子供の数の平均値が実質一人
であるにもかかわらず、平均寿命は長
寿世界一を更新しています。現在の日
本人の平均寿命は、男性七九才、女
性八五才ですが、これはあくまでも平
均値ですから、残り半分の方はこれ以
上の長生きをしていますので、公的な
年金制度は現在の方式を続けていく限
り、遅かれ早かれ疲弊していく可能性
が高いことがわかります。

さて、図表1は、現役時代に働い
ている時間と、定年後に起きている時
間が、ほぼ同じであるという時間を表
しています。現役時代は、一日八時
間一週六日出勤すると、一年五二週、
二〇才から六〇才までの四〇年間で
約一〇万時間働いていることになりま
す。一方、定年後の生活時間を、睡
眠時間を除いて一日一四時間とする
と、一年三六五日を六〇才から八〇
才まで二〇年間として、起きている時
間が約一〇万時間ということになります。

このことから、現役時代に対処しな
ければならない三大資金が、①住宅、
②教育、③老後であるということにつ
いて、何となくおわかりいただけると思
います。特に、老後資金については、
公的年金制度の問題がありますので、

私的な年金の準備が望まれます。です
から、住宅ローンの目途がついてから
教育費の準備を始めるとか、子供が一
人立ちしてから自分の老後の貯蓄を始
めるというように、一つ一つを個別に
把握することも必要ですが、できれば
もっと長期的な視点を確保しておくこ
とが求められると思います。

今回の連載では、ライフプランにつ
いて、キャッシュフロー表というツ
ェットを使って考えていきます。キャッ
シュフロー表とは、家計の収入と支出を
長期的に試算するいわば家計の「収支
計画書」で、私もファイナンシャル・
プランナーは、お客様の個別相談に対
して、具体的なアドバイスをさせてい
ただく際に使っています。しかし、今
回のそれは、統計データに基づくサラ
リーマンの平均像としてのAさんとい
う男性モデルを中心に、稿を進めて行
きます。

今号は二〇代のシングルライフ、次
号以降は三〇代から六〇代のファミリ
ーライフ、及び定年以降のシニアライ
フについて考えていきますが、キャッ
シュフロー表作成の前提条件は記載の
とおりです。採用した統計データは直
近で公表されている過年度の勤労所得
者の平均値です。皆様がご自分で作成
される場合は、(財)地方公務員等ラ
イフプラン協会発行の年代別ガイドブ

二〇歳代のライフプラン

統計データによると、男性の初婚は三〇才、女性のそれは二八才となっています。一昔前と比較して晩婚化が進んでいますので、二〇代をシングルで過ごす方が増えてきております。

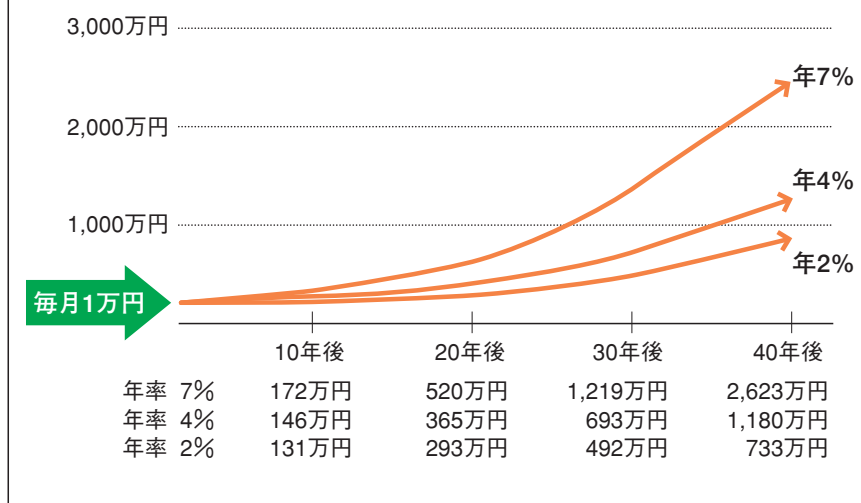
その後、結婚して子供を作る、ある

ック掲載のライフプラン計画表を使用し、入力計算されることをお勧めいたします。

図表2 各国の金利一覧 (08年1月)

国名	政策金利	国名	政策金利
日本	0.50	ノルウェー	5.00
アメリカ	3.50	スイス	2.75
イギリス	5.50	ユーロ	4.00
カナダ	4.00	オーストラリア	6.75
スウェーデン	3.75	ニュージーランド	8.25
デンマーク	2.50	香港	5.00

図表3 金利と複利効果



いは結婚しても共働きを続けて子供を持たない、または生涯シングルライフを全うするなど、価値観や生活観の多様化に伴って選択肢が広がっています。いずれにしても二〇代に共通するテーマは、自分の「お金」の基礎を作っておくということになります。

シングル時代の収入は、一般的に自分で遣り繰りするのが普通ですから、この時点で貯蓄をすることができかどうかで、その後の生活設計も変わっ

てくることとなります。例えば、ある程度まとまったお金ができれば住宅購入の頭金に使うことも可能ですし、仮に毎月一万円の積み立てでも定年まで継続すれば、自分の年金原資とすることも可能です。お金を増やすコツとして、「時間を味方につける」「金利を味方につける」ということが言われていますが、スタートが若ければ若いほど有利ですよ、という訳です。

図表2の、各国の政策金利一覧は、日本が世界に類をみない超低金利政策を続けていることを表しています。一九九〇年当時、郵便局の定額貯金の金利が六・三三%だったことを考えると、たった二〇年足らずの間に金利が一〇〇分の八になってしまったということですから今後、預貯金の金利以上に物価が上昇した場合は、結果的には自分のお金の価値が目減りするということを、考慮しておかなければなりません。

そこで、日本と海外の金利差を利用して、資金の一部を外貨で運用するのも一つの方法となります。またお金を金融商品で運用する際の利息の計算の仕方に、「単利」と「複利」があること、その違いを知っておくと役に立ちます。単利は元金に利息がつくのに対して、複利は元金とその利息に利息がつきます。つまり、複利は利息が元金

図表4 キャッシュフロー表

【前提条件】

- ◎収入 初任給 322万円（金融広報中央委員会 2006年 24歳までの大卒）
- ◎支出 食料・42,620円 光熱費・8,635円 家具家事用品・1,684円 被服及び履物・9,327円
保健医療・4,282円 交通通信・25,813円 教養娯楽・23,536円 その他消費・32,469円
（総務省 2006年家計調査）
- 家賃・1畳当たり家賃 2,879円（金融広報中央委員会 2003年 全国平均）

（単位：万円）

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	
西暦（年度）	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	
年齢	ご主人	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32
	奥様							28	29	30	31	
	お子様									0	1	
ライフイベント	就 職	車購入						結 婚		子 供 誕 生		
収入	世帯主収入	322	339	354	370	386	404	422	441	461	481	503
	世帯主年金											
	配偶者年金											
	収入合計	322	339	354	370	386	404	422	441	461	481	503
支出	生活費	168	169	170	171	171	172	173	240	245	250	255
	住宅費		70	70	70	70	70	70	105	105	105	105
	ローン返済		25	25	25	25	25	25				
	保険料	10	10	10	10	10	10	10	17	22	22	36
	教育費											
	税・社保	55	57	62	64	70	75	80	84	89	94	98
	一時的支出		70						100			
支出合計	233	401	337	340	346	352	358	546	461	471	494	
年間収支	89	-62	17	30	40	52	64	-105	0	10	9	
普通預金残高累計	89	27	44	74	114	166	230	125	125	135	144	



毎月定額1万円を4%複利運用すると…

金融資産残高累計	89	27	45	77	119	174	241	140	144	159	174
----------	----	----	----	----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----

に組み込まれるので、年数が経てば経つほど増え方が大きくなっていきます。

図表3は、毎月1万円を運用した場合の受取額の一例ですが、このように複利の効果は、時間が経つほど大きくなっていきます。このことを、キャッシュフロー表で検証してみましよう。

図表4は、平均的なシングル世帯の家計収支を、キャッシュフロー表に置き換えたものです。親元から通勤する場合と、一人暮らしをする場合とでは、貯蓄に回せる金額にも差が出て当然ですが、ここではAさんが、賃貸アパートを借りての一人暮らしをする想定しました。毎月の収入から少しでも積立に回して、それから日常生活費をコントロールするようなやり繰りができると、仮に、毎月定額1万円を複利年率4%で運用した場合、運用しなかった場合に比較して、一〇年後の受取額に三〇万円の差がつくことが見てとれます。

従って、二〇代のライフプランのポイントとは、自分の給料明細を良く見て、源泉徴収されている税金や社会保険料差引後の実質的な可処分所得に合った暮らし方を確立することです。できれば可処分所得の中から少しでも積立を始めること、その際には少しでも貯蓄性のある金融商品を選択しておくことであると云えます。